

## 平成18年第4回市議会定例会 行政報告

平成18年第4回市議会定例会の開会に当たり、当面する市政の重要な課題に関する所信の一端を申し上げます。

はじめに、「平成19年度当初予算案編成」についてであります。

当初予算案の編成作業については、国から地方への税源移譲や新型交付税など様々な改革の動きの中ではありますが、平年より早くとりかかっております。

新総合計画、行政改革大綱及び集中改革プランのもと、市民と行政が協働して取組むまちづくりを目指し、効率的かつ効果的な施策、予算編成となるよう指示したところでございます。

特徴的には、予算編成の見直しの一環としまして、経常的経費を対象に各課へ一定額を事前配分する制度を取入れております。

市民のニーズに応え、限られた財源を活かし、各部各課の主体性、職員の意識向上等を図りつつ、今後の財政健全化へ結びつけて行きたいと考えております。

なお、19年度当初予算案の規模については、これからの予算査定等によりますが、総合センターの建設等が完成しますので、本年度を下回る予算規模と考えております。

次に、「総合窓口の実施状況」についてであります。

総合窓口を設置して2か月が過ぎました。

この間、相良、榛原両庁舎の業務に偏りが出ないように、また、市民の皆さんへのサービスが低下しないよう、職員一同、知恵と工夫と体力をフル回転し、総合窓口充実に努めてまいりました。

分庁舎方式を前提とした行政組織、機構の改編は、市民サービスと行政運営の効率性の良好なバランス作りに腐心し、試行錯誤を繰り返し、段階を経ながら進めてまいりました。

進み具合によっては、職員増、機構の複雑化につながってしまいかねない課題を、むしろ特徴ある牧之原市の総合窓口を開設することにより、ワンストップサービス、組織の簡素化に努めてまいりました。

しかし、当初から全てに満足する総合窓口というものは、なかなかできるものではありませんし、市民の皆さんのニーズに適切に対応するためには、常に変化する柔軟な組織でなければなりません。

そのため、この2か月を経過した時点で、総合窓口の効果、また課題を検証し、今後の取組みを部内において検討したところであります。

例えば、市民の皆さんからの反応は、

- ・窓口の一本化、組織の簡素化に対する評価をいただいている。
- ・職員の接遇が大変いい。

・市の積極的な取組みを評価する。  
などの声をいただいております。

また、

- ・新たな組織への戸惑い。
- ・窓口案内表示の分かりにくさ。
- ・オープンスペースであるがゆえのプライバシーへの配

慮。

・いくつかの特定業務は本課でなければ対応できない。  
といった意見もいただいております。

また、窓口スタッフの間では、

- ・公金収納への安全面。
- ・他部門の専門的知識不足。
- ・専門業務の電算システムの共有化。

などの改善を挙げております。

これらの中で、できるものは既に改善しており、例えば、榛原庁舎においては、ご高齢の方が申請書などを座りながら記入できるよう、椅子と机を増設し、また、公金収納は安全な元の出納分室のスペースに移すとともに、国民健康保険などの相談を受ける職員を新たにカウンターに 1 人増員しました。

相良庁舎についても、今後、案内看板などを見やすくしてまいります。

また、組織の充実とともに、職員の資質、知識の向上、また、適正な配置が伴うことにより、市民サービスの向上が図られるものと考え、職員一同努力してまいりますので、ご理

解とご協力をお願いいたします。

次に、「広域行政」についてであります。

去る11月30日に、牧之原、御前崎、菊川、掛川、島田、吉田の5市1町の首長による広域連携事業情報交換会が開催されました。

本市の場合、現在、ごみ処理、火葬、消防、し尿処理が2つのエリアに分断された状態であります。

このため、市民の皆さんには多くの不便をおかけし、料金なども2制度が並存することとなっております。

また、事務的にも煩雑で、非効率な状況を強いられております。

消防につきましては、国の指針が「人口30万人規模で1消防本部」ということですが、政令市である静岡市、浜松市の間にあります志太榛原中東遠地域には、90万人が住んでおります。これを各市町の話し合いで3つに分けることはなかなか難しいので、どのような形になるかは、県で調整をしていただきたいと期待をしております。

このように消防のみならず、ごみ処理、火葬、し尿処理はじめ、榛原総合病院など、広域行政によって運営されているものが、12あって、そのうち、4つの管理者を牧之原市が持っております。

島田市(4)、掛川市(8)、御前崎市(11)、菊川市(10)、吉田町(5)で、この全てが別々に運営され、なお、議会も

開催されております。いかに行政のムダが多いか、本来、広域行政はメリットであるはずが、デメリットになっています。

11月30日の首長会議でも、どの市町でも状況の大変さが理解されました。施設の場所を決めるのは大変ですが、広域行政をまとめていくことも重要ではないかと思えます。

県などにも入ってもらって広域行政について検討をしていきたいと考えております。

今回の交換会は最初の会合でありましたので、各市町の現状や組合の状況を報告するに留まりましたが、今後このような会合を重ねて各市町の意見集約を図ってまいりたいと考えております。

次に、「**牧之原市総合計画推進フォーラムの開催**」についてであります。

4月からは新しい総合計画に沿って市政の運営がされますが、総合計画を市民の皆さんに広く周知し、ご理解をいただくことが肝要であると考えております。

そこで、「市民参画と協働のまちづくりを考える」をテーマといたしまして、「市総合計画推進フォーラム」を新年1月下旬から3月中旬にかけてテーマ別に3回程、開催をいたします。

これは、市総合計画審議会と、「フォーラムまきのはら」健康福祉グループ、同子育てグループの主催によりまして開催するものであります。

総合計画審議会会長であります静岡文化芸術大学大学院の坂本教授や、名古屋大学大学院の加藤教授らの基調講演をはじめ、「市民力を考える」や、「コミュニティバス」、「子育て応援し隊」といった3つのワークショップも順に開催することといたしまして計画しております。

また、新しい総合計画を分かりやすくまとめたパンフレットを配布しますので、行政だけでなく、全ての市民の皆さんが様々な場面で使えるものにしたいと考えております。

この「総合計画推進フォーラム」を通じまして、「市民参画と協働によるまちづくり」について、市民の皆さんと一緒に考えてまいりたいと思っております。多くのご参加をいただければと考えております。

次に、「**牧之原市まちづくり基本条例を考える会の設置**」についてであります。

私は、市役所内部改革とともに、市民の皆さんと行政との新たな関係を構築することで地域力のさらなる強化と、市民満足度の向上に結びつけていく必要があると強く感じています。

その原動力となるのが協働です。

新局面を切り開くパワーとして欠かせない、斬新な知恵と発想、そして実行を、市民や企業、NPOなどの皆さんと共に生み出したいと思い、「フォーラムまきのほら」を市の課題解決の新しい手法として提案しました。

「フォーラムまきのはら」の皆さんのこの1年間の成果は、具体的な制度や予算となって着実に具現化をされつつあります。

19年度は、それらの考えをさらに一歩進めるために制度化するとともに、首長・職員、そして議員をはじめ市民の皆さんが意識改革を図っていくプロセスや、責務を明らかにした条例の制定に向け、研究・検討することを目的に「牧之原市まちづくり基本条例を考える会」を設置してまいりたいと考えております。

設置時期は、19年3月上旬を目処にしておりまして、メンバーは、一般公募のほか、自治会・町内会の代表、企業の代表、市議会議員の皆さんにも入っていただきたいと考えております。

「考える会」の活動は、まず、学習会「市民参加ゼミナール」を開催し、終了後に、ゼミナールの卒業生である市民と市職員からなる（仮称）「まちづくり基本条例をつくる会」を立ち上げてまいりたいと考えております。

次に、「電子申請サービスの開始」についてであります。市民の皆さまの利便性の向上と行政手続きの効率化を図るため、県内の市町と共同で運営する電子申請サービスを平成19年1月11日から開始します。

開始当初に予定している申請の種類は、公文書の開示請求、

さざんかの使用許可申請、広報紙掲載依頼、各種スポーツ教室や検診申込など 22 手続きを予定し、今後、順次利用手続きを増やし、市民サービスの向上を図ってまいります。

次に、「空港収用裁決の状況報告」についてであります。

県の土地収用委員会より空港本体部の収用裁決が順次下されました。

「畑部分」は 10 月 18 日付けで、「山林部分」は 11 月 2 日付けで、権利取得を認める裁決や、明渡しを求める裁決がなされました。

これにより起業者である県は、土地所有者や関係人に補償金を支払うことで、土地については所有権を取得でき、移転を必要とする物件などについては、期限までに土地所有者や関係人に移転し明け渡すことを求めることとなります。

裁決について、知事は記者会見で「適正に審理がされたと理解している。法の手順に従い明渡しをしていただく。」とコメントしています。

私としましては、スムーズな明け渡しがなされることを切に希望しております。

いよいよ平成 21 年春の開港が一步具体化しました。

県では、タイ王国国際園芸博覧会に知事が出席する機会を活用して、富士山静岡空港の就航予定先であるタイ・バンコクにおいてトップセールスを行います。

また、これにあわせて県の公式訪問団を編成して、航空会社などへの働きかけを行うとともに、就航予定先の関係者に静岡県の産業・経済・観光等をピーアールするなど、国際定期便の就航促進に向けた取組みを計画しています。

このたび、県から各市長に対し公式使節団派遣への参加協力の依頼がありました。市としては、是非、こうした活動に参加し、就航促進に向けた協力をしてまいりたいと考えております。

使節団の派遣は、年明け1月中旬であります。本定例会に予算の補正をお願いしておりますので、ご審議のほどお願い申し上げます。

次に、「**後期高齢者医療制度（静岡県後期高齢者医療広域連合の設置）**」についてであります。

健康保険法等の一部を改正する法律の施行に伴い、平成20年4月1日から、現行の老人医療制度に代わり、75歳以上を対象とした後期高齢者医療制度が実施されます。

このため、19年2月1日から静岡県内の全ての市町が加入する静岡県後期高齢者医療広域連合が設置されます。

広域連合の設置に伴い、市が行う事務は、給付事務や被保険者の資格管理事務から、保険料徴収事務、受付窓口事務となります。

また、新医療制度の財源は、国、県、市からの公費と 74

歳以下の被保険者から徴収する後期高齢者支援金、そして75歳以上の被保険者の年金から天引きされる保険料で賄われることとなります。

なお、静岡県後期高齢者医療広域連合の設置については、本定例会におきまして審議をお願いすることになっております。

次に、「**保育園等施設整備計画**」についてであります。

牧之原市保育園等施設整備計画協議会を8月に発足しまして、2回の協議を終了しております。

12園を7園に統廃合するとの市内保育園等の施設整備計画（案）を持って、9月20日から10月16日の約1か月の間、保育園等の現状・園児数の減少・財政面も含めて説明を行いました。

説明会には、保護者・民生委員・区の役員さんら、10か所、11園で、合計580人程の出席を頂き、地元の皆さんの貴重な意見を伺いました。

今後は、12月に予定している第3回目の協議会の席で説明会等の意見を報告し、各園の整備方針を出していただきたいと考えております。

最終的には、市としてこの協議会の答申を受けて議員の皆さんに意見を頂きながら決定してまいります。

次に、「**榛原総合病院周産期医療施設のオープン化モデル**

事業」についてであります。

榛原総合病院では、この度志太榛原及び中東遠地域を対象とした周産期オープン病院化モデルの指定病院となりました。

周産期オープン病院とは、現在、産科医療を取り巻く状況が悪化している現状において、ハイリスク分娩を受け入れる産科オープン病院を中心に、病院と診療所又は病院と病院の連携により、安全で安心な周産期医療体制を整備するものです。

事業形態としては、機能分化による診療分担制で普段の健診は診療所で行いハイリスク者及び分娩は榛原総合病院で行うシステムであります。

このシステムは医療関係機関との連携がなくては遂行できるものではありません。このようなことから、榛原総合病院では志太榛原及び中東遠の内、東部地区の産科標榜診療所の医師に登録医となっていただきます。

現在の登録医数は本市の、あかほり産科婦人科をはじめ、8 病院が登録されております。今後も、登録医と情報の共有化を図り安全な医療体制を整備してまいります。

次に、「養護老人ホーム相寿園指定管理者申請法人」についてであります。

相寿園管理組合の指定管理者募集につきましては、本年9月の組合議会において議決頂いた、「相寿園の設置管理に関

する条例」に基づき手続きを進める中で、1 法人の指定申請がありました。

選定につきましては、指定管理者設置要綱に基づき指定管理者選定委員会で選定をお願いし、申請法人は指定管理者として適当である旨の答申をいただきましたことから、申請法人であります社会福祉法人牧ノ原やまばと学園を指定管理者の候補者として選定させていただきました。

今後のスケジュールについては、平成 19 年 2 月に開催予定の組合議会定例会において、指定管理者指定等に関わるご審議をお願いする予定であります。

次に、「インターンシップ（企業の現場での就業体験）の取組み」についてであります。

去る 8 月 21 日には、「牧之原市産業雇用支援ネットワーク会議」の初会合を開催し、当日、出席者からは、雇用対策や学生への職業教育などの現状についての報告や提案、問題点を挙げていただいたところであります。

本市としては、特に、企業側と学校側で要望の強かったインターンシップの取組みに着手してまいりたいと考えております。

インターンシップは、在学中の学生が実社会で就業体験をする制度であります。学生の職業観・就労意識を高めるとともに、採用のミスマッチ防止、優秀な後継者の育成手段として注目されているものであります。

今後、市としては、商工会や中小企業団体中央会などと連携し、インターンシップの研修会の開催や、県・国制度の支援策を取り入れるなどとともに、インターンシップ受入の中小企業の協力事業所を募集してまいりたいと考えております。

次に、「農工両善」についてであります。

スズキが、相良工場の敷地内に年産 24 万台規模の小型車専用工場の建設を決断してくれたことは、市にとって大変明るい知らせでありました。

もともと市内には、農村地域工業等導入促進法によってたくさんの方の自動車関連の優良工場が立地してきました。企業進出のおかげで勤め先ができて、そこで家族の誰かが働きながら農業経営もできる道が確保され、農地が維持できてきた面があります。

今回のスズキの進出をこのような面から捉えて、この際、一気に牧之原市農業の戦略的展開をすべきと考えます。

農業振興のための規模拡大や景観維持に必要な農地をきちんと位置付け、積極的な支援策を国や県の制度を利用して実施すべきと考えております。

本市では、水田や茶園の区画整理、農道整備や農業用水の確保など農業の基盤整備を進めてまいりましたが、さらに、積極的にこれからの農業振興を図っていくためには、どんな施策が有効で可能なのか、市の担当、担い手である農家に考

えてもらいたいと思います。

あわせて、市民側・企業側からも、消費者の立場で求められる農業施策の提案を受けていこうと思っております。

食料が人間の生命の維持に欠くことのできないものであり、かつ、健康で充実した生活の基盤として重要なものであることにかんがみると、安心・安全な食料を合理的な価格で安定的に供給する農業は、これからも非常に大切な産業であるといえます。

私は工業の発展と農業の一段の振興の双方を目指す「農工両善」という政策を進める市政を目指してまいります。

次に、「**荒茶残留農薬検査事業**」についてであります。

一番茶の結果については 9 月議会において安全が確認できましたことをご報告申し上げましたので 2 番茶以降についてであります。2 番茶については 199 の工場からそれぞれ荒茶検査サンプルを提出していただきました。

検査を実施したところ 2 番茶も全て検査合格であったとのことであります。

3 番茶につきましても、需要予測等により稼働した工場数も少なくサンプル提出工場は 7 工場でありましたが、3 番茶についても全て検査に合格であったとのことであります。

秋冬番については、現在検査途中であります。

来年度におきましても、牧之原市の「お茶安全・安心取組

み事業」を継続し、充実して積極的に進めてまいります。

次に、「**建設関係**」についてであります。

建設工事や工事に伴います委託業務につきましては、道路交付金事業の須々木大溝線改良工事や都市計画街路・山の手幹線新戸川橋の下部工事をはじめといたしまして、99 件の発注を済ませ、予算額に対して 72 パーセントの契約率であります。

今後台風 7 号による被災した災害復旧工事など 56 件の発注を予定しております。

また、用地買収や補償についてであります。29 件の契約が成立し、予算額に対し、84 パーセントが完了しております。

未取得用地についても、残った期間内に完了するよう鋭意努力してまいります。

次に、「**体育館耐震補強工事の前倒し実施**」についてであります。

市内 6 小学校の体育館耐震補強事業については、当初、平成 19、20 年度の 2 か年で実施するよう計画していたところですが、文部科学省からの通知で 19 年度要望が多いため、「1 年前倒し実施」の要請がありました。

市として検討、調整した結果、事業の実施が早められることや、補助事業採択の優位性の面などから相良小・川崎小の

2校体育館について、今回の補正予算において予算確保をさせていただきまして、平成19年3月着手、10月完成の予定で実施することといたしました。

本事業は児童の安全確保の面から本市の緊急かつ重要課題でありますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

次に、「**第7回静岡県市町村対抗駅伝競走大会 牧之原市チーム出場結果報告**」についてであります。

平成18年12月2日（土）、静岡県庁前を午前10時にスタートし、草薙陸上競技場までの10区間で、第7回目の市町村対抗駅伝競走大会が開催されました。

今回の大会は、県内の42市町より47チームが出場しました。前回大会が57チーム出場しましたので、市町村合併により前回大会より10チーム少ない出場でありました。

当日は、市議会議員の中からも、牧之原市チームの応援に出かけていただきありがとうございました。

大会結果については、2時間29分30秒で、市の部28チーム中24位、総合31位の成績でした。前回大会では2時間31分18秒で市の部26チーム中25位でしたので、1分48秒タイムが良くなったという結果になります。

今回は念願の30分をきりました、順位も上げ、敢闘賞もいただけて大健闘でありました。長い間指導してくれました監督や指導者の皆さんに感謝申し上げます。

裏方を務めたメンバー、励まし支えてくれた父母、たく

さんのドラマがあったでしょうし、心に残ったこともたくさんあるでしょう。

来年も、一つでも上位を目指して頑張っていたいただきたいと思います。ありがとうございました。

以上、所信の一端について申し上げ、行政報告とさせていただきます。

平成 18 年 12 月 4 日  
牧之原市長 西 原 茂 樹